

教団新報

定価 1部220円(本体200円+共283円)
 予約購読料 1年分 円共 3,962円
 紙代のみ 3,080円
 振替 00140-9-145275
 本紙を購読ご希望の方は、前金を
 そえて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。
 教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
 169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
 FAX03(3207)3918
 URL http://uccj.org
 発行人 網中彰子
 編集主筆 嶋田恵悟
 印刷所 株式会社きかんし



常議員は対面、陪席者はオンラインで

第42総会期第8回

常議員会

2050年度予測に基づき、教団財政の危機的状況を共有

第8回常議員会が、10月23〜24日、教団会議室で常議員全員が出席して行われた。

議事日程の承認の中で、機構改定についての議題がないことを受けて、「前進させていく手だてを考へるべき」との意見があった。雲然俊美議長は、三役で話し合った結果、提案するような事柄を出せない状況であることを報告した。

書記報告の中で黒田若雄書記が、出版局ステアリングコミッティについて、経営改善に向けて必要な協議を行う場として継続することを報告した。この報告に対して、責任役員会が責任をもつて経営改善を進めるべきとの意見があった。

総幹事報告におい

て網中彰子総幹事が、2022年度諸教会概況について報告した。「2030年度問題」(現任陪席会員半減、教会伝道所の経常収入3分の2)の予想よりも減少傾向が加速的に進んでいることを告げ、2050年度までの教団負担金の仮定値を提示し、2050年度には、現任陪席会員2万6000人、各個教会伝道所の経常収入が6億3700万円となり、教団財政が危機的状況になるとの予測を語った。

協議会

「教団財政の現状と課題」

一日目の議事終了後に「教団財政の現状と課題」と題して協議会が開かれた。最初に宇田真子算決委員が発表を行った。

発表の要点は①第39総会期に示された今後の財政の課題、②2014年度以降の財務の状況、③現状である。

①では第39総会期の予測が再開されたこと、事業活動支出について、常議員会費951万5000円は、2024年度に教団総会が開催される、新しい常議員会が組織されることも踏まえて微増、常設委員会費717万1500円は、コロナ以前比で70%、ただし、前年度はコロナ以前比60%であったので微増となり、各委員会の活

に、機構改定の形は、財政の減少により「こうせざるを得ない」という形どうかあがって行くとの見解を述べた。

質疑の中で、「世界平和統一家庭連合」に対する政府の解散命令請求について、「カルト問題キリスト教連絡会」が請求を支持する内容の声明を準備し、日本基督教団が「賛同教会」として名を連ねようとしていることに対して疑義が出された。特に、豊岡教会から

常議員会に、「信教の自由」の観点からの声明を出すことを求める要望書が届いたこと、兼ね合いから協議がなされた。連絡会の声明には、政教分離の問題が抜けており、丁寧な扱おうとを求め、この声明が教団の意志と取られてしまいかねないことを危惧する意見があった。

雲然議長は、連絡会の報告では、藤盛勇紀委員長が、伝道交付金の申請額が350万円超過し、一律8%減額したことを報告した。また、大阪教区、九州教区からの要望書を委員会に検討したことを報告し、「委員会としても問題点があると考えており、本制度が伝道推進になるために、この委員会以外の検討する場を設けることも視野に入れて提案を4点述べた。

提案を4点述べた。

を求めた。

決委員会の作業委員会の検討によって、教団機構を変えないと20年度以降財政の破綻を来すだろうと結論付けられたことを振り返った。

②によると14年以降は毎年経常会計に差損が生じていたが20年度以降はコロナ禍による活動の停止・縮小によって差益が生じている。一方で収益事業会計はコロナ禍の影響で会議室使用料の減少により差損が続いている。また会館室料、法人税・消費税の未収金による預金が減少している。

③によると23年度当初の流動資産は1億3000万円で、事業活動支出の半分は満たない危険な

告では、藤盛勇紀委員長が、伝道交付金の申請額が350万円超過し、一律8%減額したことを報告した。また、大阪教区、九州教区からの要望書を委員会に検討したことを報告し、「委員会としても問題点があると考えており、本制度が伝道推進になるために、この委員会以外の検討する場を設けることも視野に入れて提案を4点述べた。

出席者からは出版局に

財務関連

出版局の運転資金借入を可決

二日目、財務関連議案を扱った。「2024年度教団歳入歳出予算に関する件」では、宇田真子算決委員が予算案を報告。経常会計では、事業活動収入、教区負担金について、依然コロナの影響があることを鑑み、コロナ以前比3%減で2億2140万6000円であり、収入合計は2億7773万8000円と

なることとした。

事業活動支出について、常議員会費951万5000円は、2024年度に教団総会が開催される、新しい常議員会が組織されることも踏まえて微増、常設委員会費717万1500円は、コロナ以前比で70%、ただし、前年度はコロナ以前比60%であったので微増となり、各委員会の活

動が再開されつつあることを考慮されていること。また、他団体分担金NCC分担金を64万円減額、584万円とし、支出合計は2億7337万3500円であると報告した。

その後、「予算は、予算編成方針を提示した上で立てるべき」と指摘し、教団の予算編成の在り方を問う声があった。雲然俊美議長は、「教団では、

先に編成方針を明確にして予算を立てる形を取っていない。今後そのような在り方を三役で相談しながら検討したい」と答えた。

また、幹事の予算管理について問う声があり、黒田若雄書記が、委員会の中の幹事の役割や、予算に対する責任のあり方が曖昧になっている現状として協議することになった。協議の中で、賞与を削る等の努力を求め、事務局と同様の給与体系で、出版局だけ異なる対応をすることは避けるべきであること等を説明した。

この議案と共に、常議員会において、出版局の将来検討の協議を進めることとする議案を可決した。議決後、雲然議長は、「今年中に常任常議員会を開催し、2月の常議員会で報告が出来るようにしたい。また、常任常議員会の際に、教団機構改定の進め方について相談することも議題として」と述べた。

その後、「予算は、予算編成方針を提示した上で立てるべき」と指摘し、教団の予算編成の在り方を問う声があった。雲然俊美議長は、「教団では、

先に編成方針を明確にして予算を立てる形を取っていない。今後そのような在り方を三役で相談しながら検討したい」と答えた。

また、幹事の予算管理について問う声があり、黒田若雄書記が、委員会の中の幹事の役割や、予算に対する責任のあり方が曖昧になっている現状として協議することになった。協議の中で、賞与を削る等の努力を求め、事務局と同様の給与体系で、出版局だけ異なる

果、議案を可決した。出版局借入れに関する件では、出版局の運転資金として教団が銀行から2000万円の新規借入をする可決した。毎年この時期に、運転資金を借入しており、これまで総幹事報告を承認するという形を取ってきたが、今回、はじめて議題として協議することになった。協議の中で、賞与を削る等の努力を求め、事務局と同様の給与体系で、出版局だけ異なる

(小林信人報)

▼伝道推進室委員会▲

今総会期の活動について協議

第8回伝道推進室委員会が、10月6日、教団会議室で開催された。

まず、「日本伝道の推進を祈る日」への取り組みについて、全国伝道推進献金の呼びかけと『信徒の友』の各教区の記事掲載の3巡目(2022年1月～2023年5月)会計の最終報告をおこなった。全国伝道推進献金による収入は299万6727円であり、教団・教会・伝道所への指定期金81万557円を送金し、3巡目終了時の残金は249万4591円となった。なお、全国伝道推進献金については、4巡目が6月から開始されており、全国から祈りとともに、献金がさげられている。

次いで、「42総会期の伝道推進室の活動」について協議をおこなった。これについては、本総会期において第1回委員会より協議を重ねている。41総会期において、コロナ禍による中断があったため、あらためて本総会期において、伝道推進室委員会に期待されている働きについて、丁寧に意見交換の場を設けている。これまで、伝道推進室発足当初から、今日にいたるまでの目的と目標、活動について、振り返る機会を得ている。

今回の委員会は、寛政人委員より、「日本基督教団社会より学ぶ」と題して、旧日本組合基督教団における、戦略的な伝道の取り組みについて発題があり、伝道推進を考える上での貴重な学びの機会を得た。

伝道推進室は、総会期

▼宣教委員会▲

宣教方策会議について協議

第3回宣教委員会は10月16日、教団会議室を会場に開催された。全国婦人会連合委員長交代に伴い、今回からキリスト岡崎さゆり委員長が陪席者として加わった。開会礼拝は中西真二委員長が自身のこれまでの伝道者としての歩みにも触れ、第二テモテ4章1節以下から伝道の喜びが語られ励ましを受けた。その後、前回の議事録の承認、常設専門委員会、自主活動団体の報告を受け、2つの事項について協議した。

「宣教方策会議」に関して前回引き続き協議を重ね、主題は「日本基督教団の未来のために」とし、教団機構改定をめぐって題して雲然俊美教団議長より講演を受けた。また、困難な現状の中で、全体教会として今何ができるかを皆で考えるために発題を備え、分団、全体協議をすることとした。発題の内容は教師を立てること(教師像、教師論)と教会協力、教会の連帯に思いを寄せ、2名に発題してもらうこととした。日程は24年3月4～5日、会場は教団会議室。なお、予算が120万であることを考慮し、教区からの参加者は2名とし、内1人はオンライン、自主参加はオンラインのみとした。

「教会中高生・青年大会実施に関する件」については、まず今総会期で当委員会のもとに組織された青年大会実行委員会のこれまでの報告を受けた。2017年7月の教団中高生大会、2018年3月のリフォユース500教会青年大会から5年以上の月日が経っていることを考慮し、再スタートとしての青年大会であることの確認がなされた。実行委員会と協議されている案、これまでのように一つところに集まるのではなく、各地域教会を会場とし、オンラインでつなぐ形(サテライト型)で開催する方向性を確認した。開催時期は今総会期中とした。その他、詳細は実行委員会にて協議し決定する。

(堀川 樹報)

▼教区伝道委員長会議▲

「これからの伝道協力を考える」をテーマに

10月18～19日、日本基督教団会議室において「これからの伝道協力を考える」をテーマに教区伝道委員長会議が開かれた。15教区から16名、発題者3名、伝道委員・事務局総勢29名(内オンライン8名)が参加した。

(1)発題

教区内・支区内・分区内ですで行われている伝道協力の実際。久世そらち教師は様々なデータから北海教区の教会・伝道所の現状を分析。他教区とも比較して北海教区の特徴と将来の見通しを語った。

謝儀互助や主任担任教師不在教会への礼拝支援がなされ、教区定期総会では全ての教会・伝道所の報告が共有されている。「何よりも信徒同士の濃厚な繋がりがあつのが北海教区の特徴です」との言葉が印象に残った。

岡田真希教師は三宅島伝道所に2020年度、38年ぶりの定任牧師として遣わされている。東京教区東支区の伝道協力の経緯と現状・課題、そして恵みを語った。

(大塚啓子報)

しようがないと笑顔で証した。

黒田若雄教師は四国教区での教会間伝道協力を発題。現状が厳しくなってきたから協力が必要なのではない。その地域の伝道を複数の教会が担うためであり、点から線、線から面へと展開して伝道をしていく。楽しくて

「世界AIDS・DAY」に際して、中村吉礼氏(代々木上原)の長澤道子氏に交代した。

(第3回社会委員会)

社会委員長会議について協議



兵庫教区事務所にて

《第2回社会委員会》

6月29日オンラインにて開催。秋間文字委員による開会礼拝の後、前回議事録を承認した。

日本キリスト教社会事業同盟報告として、キリスト教精神に立つ社会福祉の連帯のために、教団との関係をより強固なものにしたいとの旨が伝えられた。

協議事項として、10月30～31日、兵庫教区被災者生活支援・長田センターにてフィールドワークを行うこととした。兵庫教区の災害への取り組み

みや阪神淡路大震災の被災者支援について聞き、同時に教団や他教区に望むことを聞き、社会委員長会議につながるような内容にする。

「世界AIDS・DAY」に際して、中村吉礼氏(代々木上原)の長澤道子氏に交代した。

(第3回社会委員会)



3名の発題を聞く

謝儀互助や主任担任教師不在教会への礼拝支援がなされ、教区定期総会では全ての教会・伝道所の報告が共有されている。「何よりも信徒同士の濃厚な繋がりがあつのが北海教区の特徴です」との言葉が印象に残った。

岡田真希教師は三宅島伝道所に2020年度、38年ぶりの定任牧師として遣わされている。東京教区東支区の伝道協力の経緯と現状・課題、そして恵みを語った。

(大塚啓子報)

教団HPでは、毎月メッセージ動画(約10分)を配信しています



QRコードからどうぞ

- 11月 希牧師 (京葉中部教会)
- 12月 修牧師 (蕃山町教会)

是非ご視聴ください。尚、HPにはテキストメッセージもあります。

第15回日本基督教団部落解放全国会議in京都

「水平社100年と『わたし』そしてこれから」

第15回日本基督教団部落解放全国会議in京都を9月26、28日京都教会を主会場に行つた。テーマは「水平社100年の言葉で語ろう」。参加者は全国より91名。基調講演では地域福祉センター希望の家所長の前川修さんが「全国水平社創立大会宣言について」と題し水平社宣言成立の背景と現代から見た課題を語った。



左から、講師の山本さん、山内英子さん(運営委員)、手話通訳者

「わたし」と題して被差別地域の現実について語った。続いて山本さん「差別の現実ある現実と教会」と題し、在日コリアンとして経験した人生の苦勞や教会での闘いを振り返り、

教区議長コラム 四国教区 寺島 謙

教区の色々な委員会に出席する機会を与えられている。四国教区は4県6分区から構成されているが、委員会は分区を超え、県境を超える場合が多い。移動時間もそれなりにかかり、運転好きではない。だが、いつも楽しみにしていることがある。それは信徒たちの出合いで

各個教会を支えるために

ある。あの教会のあの人の、この人に再会出来る喜びは長距離移動の疲れを癒やしてくれる。何よりも神様から託された四国伝道の使命を果たすために共に働くことが出来るのは、牧師にとって大きな恵みであり励みである。

事務局報

加藤昭之助(隠退教師)



23年1月17日逝去、93歳。秋田県生まれ。91年受允、93年受按。91年より六郷伝道所を牧会し、02年隠退。遺族は、息・加藤忍さん。

松波義郎(隠退教師)



23年9月21日逝去、93歳。神奈川県生まれ。60年日本聖書神学校卒業。同年より池袋西、東京愛隣、島原、津屋崎教会を牧会し、97年隠退。遺族

は、妻・松波余年子さん。飛田悦子(隠退教師)



23年10月2日逝去、101歳。鳥取県生まれ。57年聖書神学院を卒業し、69年より福知山、新見、玉島教会を牧会し、88年隠退。遺族は、甥・飛田茂樹さん。

美香さん。本宮 曉(隠退教師)



23年10月10日逝去、88歳。埼玉県生まれ。64年東京神学大学院院修了。同年より豊島岡、福伊達、清瀬信愛教会を牧会し、10年隠退。遺族は、妻・本宮郁代さん。

加藤 誠(シロアム教会)



主任担任教師) 23年10月29日逝去、69歳。岡山県生まれ。84年東京聖書学校卒業。同年より丸之内、名古屋西、静岡一番町、シロアム教会を牧会。遺族は、妻・加藤豊子さん。

辞(外)石田 求 教師隠退 張 悦子、大村眞澄、島田好国、館山英夫、森起美恵 教師退任 北古賀祐子、大西高雪 教師免職 柴田 実 教会解散 ひの木 教会合併 堀切、江東 (堀切こうこう設立) 教会所在地変更 岡山博愛会 〒703-8295 岡山市中区御幸町1-27 教会通信先設定 涌谷 〒987-0121 宮城県遠田郡涌谷町涌谷字日向町34 鎌田仁美方 仙台市民 〒980-0001 1 仙台市青葉区上杉1-15-31 仙台ホサナ教会気付 伊予吉田 〒796-0006 6 八幡浜市本町79 森分方 日向新生 〒889-0061 6 宮崎県東臼杵郡門川町南町2-43 本田宏方

ガザ紛争被災者救援募金のお願い

主の聖名を賛美いたします。 去る10月7日からのガザ紛争により、双方で1万人を超える死者、数万人の負傷者、また多数の避難者が出ています。 日本基督教団では、一日も早い平和と人々の命が守られることを祈り、社会委員会を通して人道的支援のための募金を行います。すでに支援活動を始めたACT (Action by Churches Together) Allianceの呼びかけに応えた救援募金です。 ご協力をお願いいたします。 2023年11月7日 日本基督教団社会委員長 柳谷知之

- ◎募金期間 2024年3月末
◎目標額 特に定めず
◎送金先 加入者名/日本基督教団社会委員会
◎郵便振替 00150-2-593699 (通信欄に「ガザ紛争救援募金」とお書きください。) 〒169-0051東京都新宿区西早稲田2-3-18 日本基督教団社会委員会 (電話03-3202-0544)

事務局よりお知らせ

★『日本基督教団年鑑2024』刊行 日本基督教団年鑑2024年版が発行されました(定価3,200円+税)。 ★『教憲教規および諸規則 2022年2月改定』も特価販売中 税・送料込み1,100円、5冊以上購入の場合は更に割り引きあり。事務局総務部まで。 Tel 03-3202-0541 Fax 03-3207-3918 e-mail <somu-b@uccj.org>

伝 道 報 告

七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。…イエスは言われた。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」 ルカによる福音書第10章17節～20節

伝道の ともしび TOMOSHIBI

ひとり一人に寄り添って

水海道教会学園二葉こども園園長・水海道教会牧師 手束 信吾

まったく聞いていません。保育室は、礼拝堂をはじめと



教会と園舎

園児減少、人手不足など、まだまだ課題は

水海道教会は、メソジスト監督教会のジュリアス・ソーパ

「隠退教師を支える運動」全教区推進協議会

「運動の輪を広げよう」

隠退教師への感謝とともに



「隠退教師を支える運動」全教区推進協議会が、

の後、山田昌人事務局長の司会の下で、昨年度諸

午後全体協議に入り、2教区推進員による発題



山中 誌朗さん

主に仕える便利屋として



高知教会員

高知で生まれ育ち、高知教会の傍にある幼稚園に通った

族とのやり取りも加わり、精神的に疲弊しきってしまう。

「高校の体育祭は地獄でした」と、ある牧師。「ぼく、ぼっち

葬られた『ぼっち』

「高校の体育祭は地獄でした」と、ある牧師。「ぼく、ぼっち

「ぼっち」は、ぼっちも平気、という人も少なくないが、皆で

「ぼっち」を味わう。